

報



會

會 岳 山 本 日

9

月 九 年 六 和 昭

九重山と久住山

九重山と云ふのは陸地測量部五萬分一圖の宮原號にある一七六四米の一峯であり、久住山と云ふのは同じ地形圖で九重山の南東に近く聳ゆる一七八八米の一峯のことであるが、その地圖では共にグヂユウと讀ませて居るので、これを耳できく丈の場合には當然いづれの峯をさすか不明なことがおこり勝ちで、やむなく九重山の方をコノエのグヂユウサン、久住山をヒサズミのグヂユウサンなんていふやゝこしい云ひ方をして居るのに屢々ぶつかる。併し日本で最も權威のある地形圖にもさう註記してあるのだから、その人達にも何も罪も咎もないわけである。要はあんなまざらはしい、やゝこしい註記をあの圖面からとり去つてもらつて、今少し理屈の立つた註記に改めてもらへば、それで萬事解決するわけである。筆者は前から、あの地圖の九重山は地方での稱呼である星生山^{ホフシヨウ}に改め、久住山はそのまゝにして置いて、九重といふ字は山彙名として扱つて來て居り、識者の間には大體それが容認されて居るものと考へて居る。

× ×
大分長くなつたがこれを前置きにして九重山と久住山の由來話をザツトさせていたゞかう。

何事によらずおうようだつた昔の人は、朽網郷の北を劃してソ、リ立つ大岳を大ザツバに朽網山と云つて居たものらしいが、少し時代が下つ

て來るとこれが黒山(黒岳)、大船山、九重山或は久住山とハッキリ三つの群に分かれて來る。そして九重山は岡藩が用ひ、久住山は肥後藩で用ひて居て、兩々相ゆづらず、この時代から九重山と久住山の對立ははじまつて居るわけだが、その對立は、當世の九重山と久住山との間の問題とは余程事情がちがつて居たことは云ふ迄もない。今の久住町にある猪鹿狼寺の舊記によると「久住山は九州第一の高山なり。(中略)大和山慈尊院と號す。山九重に有之ば觀音令法久住の靈地なり」と久住山と文字を改め云々」とあつて、大和山と云ひ九重山と云ひ、久住山と改めた様に考へられる。一方法華院に残る舊記によつて見ると「前略。阿部中納言勅使として下り給ひ九重の山と名付け給ふ。此時より西の京と唱來り云々」と、又「奉請人皇二代綏靖天皇、而祝十二所大明神、故準九重三帝都、以名山也」等とあつて、山城を九重の帝都になぞらへて九重山と云つたといふのだから、ここはコノエサンと讀むのが當然であらう。そして今古以來猪鹿狼寺は細川侯に屬し、法華院は岡藩中川侯に屬して、共に同一の山神に奉祀して來たのであるが、この九重山も久住山も當時は山上の御池を中心とした高峯の總名であつて、この外には前にも記した様に、大船山と黒山とが別峯として認められ、三嶽といふ言葉もあつたらしい。そこで九重と久住とは當然同一の山にあてられた文字で、し

かも九重の方はコノエと讀ませて居るのである。そして共に總名であるから、どの峯といふこともなく使はれて居たのである。元來熊本藩と岡藩とは余り仲のいい方ではなかつたらしく、兩藩はわざわざ文字をちがえて用ひて居たものと思はれるのであるが、その一つの證據とも云ふべきものが、法華院の舊記に残つて居るから面白い。それは萬延紀元仲秋日豪學寫之といふ覺の書付で、それによると寛文七年の四月廿八日に、肥後領久住の郡代白江八左衛門が久住の庄屋百姓共六拾人に鐵砲迄持たせて、當主の豐州院の留守にもかゝはらず、坊内に入つて狼籍を働いたが、折柄老僧勝光これをとがめた處、郡代の云ふことに、自分は役目を以て當山の本等取調べに登山したものであると云ひ、又朽網郷中にあつて何故に九重山と云ふかととがめて居る。つまり久住山とこちらで云つて居るのに、何故同一山を九重山と云ふかととがめたのであるが、勝光の理路整然たる應答に、郡代も云ふことがなくなつて歸つて行つたが、さすが本藩の家老は、後に之れをきいて郡代の暴舉(或は失敗か)を難じ、同年の秋八左衛門を追放に處したといふ。

法華院溫泉の弘藏氏の御話によると、從來三角測量等が出来てなかつた頃は、地方の人は御池の上の天狗ヶ城を、最高峯と思ひ込んで居て、今の一七八八米の所謂久住山等問題にもせず、別に登山するものもなかつたといふことであるが、近世に至つて山の高さがわかり、個々の峯に名がほしくなると、いつのまにかその最高峯に久住山をあて、來たが、それでも久住山と九重山とは、同一峯の別名として通つて居たものと思はれる節が多い。しかるに例の地形圖に、この二つの文字を別峯にあてゝしまつたので、大變やゝこしいことになつて、結局筆者の如き未熟の輩迄が、とび出さればならぬといふ始末になつたのである。そこでいろいろ理屈を云へば切りがないが、今の久住山の方は例の一七八八米の峯のことと、大體一般に認められて居るから、それはそのまゝにして置いて、とかく問題になる九重山の方は、明かな地方の稱呼があるのであるから星生山とし、實は歴史的には事柄が少々逆ではあるが、九重山は久住山の異稱として置く事にし、一方この九重といふ字を納富理學士の御考へに従つて、東は黒岳から西は涌蓋山に至る一帯の火山彙の總稱にあて、九重火山彙又は九重山彙とするのは、決して無理な行き方ではなからうと思ふ。そしてこれは是非コノエと讀んでもらつて、久住のグヂユウと區別をつけることにしたいものである。もつとも朽網山彙などとするのも好ましい一案ではあるが、今更世間に通用しきうにもないから、殘念ながらあづかりにして置く。



會務報告

九月十日定例理事會報告

出席 評議員一名 理事九名

一、十月中旬本會主催にて登山に係ある官廳及團體の當事者を招待し今後の聯絡に資するに決定

二、山岳圖書と覽會開催の提案あつたるも書誌作製早急の間に合はず一先づ延期に決す。

三、本年度山岳第三號に就き編輯係より報告。原稿締切最終日十月十五日、十一月末發刊の豫定

四、會員の登山經歷表を集むることに決定。原案作製浦松擔當

五、本年刊行を延期したるガイドブックは尙考究を要す

六、第五十二回小集會の件

七、全國登山團體の名稱、會員數其他を調査する件、可決。角田藤島擔當

八、會報印刷補助年額五十圓増額の件、可決

九、明年度山日記に關する件

十、法人組織を更に促進する件

十一、今秋行はるべき理事改選に關して議する所ありたり。

圖書基金申込會員氏名

圖書基金申込會員氏名は本誌第七號に掲げた、猶其後の申込者は左の通りである。

東京 冠松次郎(一口) 中村清太郎

(一口) 小嶋久太(一口追加)

前回發表したる四十一名五十二口を加算すれば現在四十三名五十五口である。

新着圖書

樹氷 第二號 第四號 山人俱樂部

飛驒史壇第八號、第九號 飛驒史壇會

山嶺 十年七號、八號 東京野歩路會

アルカウ趣味 十八年第七、八、九號

山行案内 六年第六、七、八、九號

關西學生山岳聯盟報告 第二號

セルバン 山岳 第一書房

山岳寫真大觀 野球界増刊

尾根づたひ 三 青山學院山岳部

山幸 第五、六號 坂神山岳會

旅と人 七月號 其の社

山と溪谷 第八、九號 其の社

立教大學山岳部々報 III 同山岳部

ツーリスト 十九年第八、九號

旅行 第六十五、六十六號

踏跡 創刊號第二號 東京登山旅行會

會報 八年第六號 關東山岳會

三角點 八輯 フアガスクラブ

地震 七月號 地震學會

山彦 四年第八、九號

山旅 六年第三號 東京山彦山岳會

旅 十一年第八、九號 山旅クラブ

東京アルカウ會

オールスポーツ第九四、九五、九六號

交通時事 十二年第八、九號

ベテスツリヤン 第一二三號

臺灣山岳叢報 三ノ三四

日本登高會々報 四

管見錄 第六十九號 大阪管見社

岳友 第八十號 日本岳友會

後立山連峯 同 冠松次郎著

登山とキャンピング 熊澤、桑田、

山の鍵 榎山、瀬木、三輪共著

山のスケッチ 納富重雄著

東京附近の山々 富田、丸山共著

南アルプスと其附近 河田、高畑共著

奥秩父と其附近 同 奥秩父著

登山キャンブ適地案内 金星堂

富士とアルプス 小松榮著

山と溪谷 第九版 田部重治著

山へ溪谷へ 池田博著

憧れのキャンピング 太田行藏著

峠と高原 田部重治著

南アルプスと奥秩父 山梨縣山林會

慶庭野稔線測量報告 陸地測量部

五萬分ノ一京都附近圖 同

山の避難防過法 櫻井史郎著

上越國境 角田吉夫著

五萬分ノ一東京西部近郊圖

詩集雲表 陸地測量部

米國アルプス踏破記 藤木九三著

Rivista Mensile Club Alpino

Italiano No.4 No.5 No.6 No.7

The Mountaineer #67.8.9.10/1931

Die Alpen #6.7. 8/1931

The Canadian Alpine Journal

Vol. XIX. 1930.

The Geographical Journal June.

July-Aug. 1931.

La Montagne, Mai-Juin Juillet-

Aout 1931.

The Himalayan Journal Vol. III.

1931.

Bulletin Appalachian Mountain

Club, June 1931.

Sierra Club Bulletin June 1931.

Bulletin del Centre Excursionista

de Catalunya #5.6.7. 1931.

Mededeelingen der nederlandse

Alpen-Vereeniging 1931.

Revue Alpine 2e trimestre 1931.

Natural History July-Aug. 1931.

Trail Timberline Aug. 1931.

The Autobiography of John

Ruskin. 3 vols.

故中村邦之助氏遺贈

Ratgeber Für Bergsteiger II.

會員八代準氏寄贈

Pinnacle Club Journal #1.2.3.

リチャーズ夫人寄贈

購入圖書

書名

著者名

浮世繪と風景畫

高山植物の話

山の民話 海の民話

スキー術階梯

富士山植物誌

大臺ヶ原山

高山植物採集及培養法

山とスキー(一揃) 山とスキーの會

小島鳥水

武田久吉

松川二郎

北大スキー部

梅村甚太郎

大臺ヶ原教會

志村寛

A. L. Mumm The Alps Club

會

Register 3 Vols. 1857-1890.

Dent. Above the Snow Line
Mountaineering Sketches
between 1370 and 1880.E. D. Whymper. Travels amongst
the Great Andes of the
Equator. John Murray
London. 1892.—do—Supplementary appendix
John Murray London. 1891

Alpines Handbuch. Band I. II.

F. A. Brockhaus Leipzig. 1931.

Inaka Vol. XIII. XIV. XV. XVII.

XVIII.

圖書室開室日當番

十月

二日 松方 五日 浦松
七日 藤島 九日 藤田
十二日 冠 十四日 横
十六日 松本 十九日 鳥山
廿一日 角田 廿三日 渡邊
廿六日 藤島 廿八日 藤田
三十日 冠

十一月

二日 横 四日 松本
六日 鳥山 九日 角田
十一日 渡邊 十三日 藤島
十六日 藤田 十八日 冠
二十日 横 廿五日 松本
廿七日 松方 三十日 浦松

致します。



新刊紹介

上越國境 角田吉夫氏著、本年九

月大村書店發行 定價二・二〇

東は尾瀬から西は白砂山までの上越國境、及びその附近の數多い山と谷に關する概念と案内を説くこと極はめて詳細。もとより未だ探られざる所の秘からぬ地方であるが故にそれらの山谷に就ては著者も今後の踏査に俟つと言つてゐるが現在の所ではこの地方に關する最良の書である。挿入の寫眞はいづれも見事である。參考文獻目錄、地名索引の附してゐるのは甚だ便利である。(T・F)

北海道の山岳 井田坂本澤本須藤

館脇田中山縣七氏共著、本年八月

札幌晴林堂發行 定價二・五〇

北海道の諸山に關する登山案内書である。北海道の山のことば從來纏つたものがなかつたので調べるとなると諸書を渉獵する必要があつた。本書出で、この煩は除かれた。執筆者は皆多年北海道にあつて未知の山谷を片端から片付けて歩いて猛者達ばかり、従つて記述は盡して剩すところがない。夏期よりも冬の記述に力を入れてゐるのが、いかにも雪に

惠まれた地方の登山案内らしい。寫眞版十五葉北の島の山を偲ばせるに足りるがや、鮮明を缺くもの、あるのは惜しい。(T・F)

雲表 藤木九三氏著・本年八月大

阪黒百合社發行 定價一・二〇

登山に文筆にたゆまざる精進を続けられる藤木氏の「やま」の詩を集めたものである。山に對する若々しい情熱が筆に托されて自由に盛り上げられてゐる。

同氏の前者にあつた「北鎌尾根」

と題する詩がこゝにも再録されてあ

るが「齒槽膿漏症でがたがたに弛んだ御隠居の亂杭商」など、いふ表現はどうかと思はれる。かのシャル・ボードレル以來、詩にして醜きもの、内に見出される美をうたへるは、數多いが美しきものを殊更に醜く象徴するはあまりきかないところである。右の詩に就いて前から感じてゐたことをこの機會に附言する。(T・F)

憶れのキャンピング 太田行藏氏

著、本年五月健文社發行 一・五〇

いかなる目的を以て書かれた書物なのか 愚者百出の世の中とは言へ

ればあまりにひどい本である。「天幕生活の神隨に觸れるには文人の神經を捨て紳士の作法を捨ててかゝらなければならぬまい。これは冒頭に書かれた言葉だ。

「防水も必ずしも必要ではない。洋傘でみてわかるやうに雨にとつては中へもぐり込むよりも布面を早く迂り落ちてしまふ方が面白いらし

い」これはいかなる天幕を選ぶべきかの項にある言葉だ。

「山地を歩く場合など無理をしないことが肝要である。急いで歩きたいならば汽車も自動車もあるんだから」これは「歩き方」の項にある。

全卷この調子と思へば間違ひない著者は著者の所謂天幕生活と同じやうに紳士の作法を捨て、この書を公刊されたのであらう。(T・F)

陸地測量部新刊地圖目錄

五万分一地形圖 修正

宇都宮 五號 鹿沼

日光 八號 日光

松山 一號 松山北部

熊本 一號 日田

同 二號 八方嶽

同 三號 限府

同 五號 久留米

同 六號 山鹿

同 七號 高瀬

五万分一地形圖 鐵道補入

青森 十二號 五所川原

福島 十二號 郡山

盛岡 十號 外山

熊本 十號 大牟田

同 九號 佐賀

二万五千分一地形圖

甲府近傍 十五號 人穴

松山近傍 六號 伊豫北條

二万五千分一地形圖 修正

沼津近傍 八號 愛鷹山

熊本近傍 六號 熊本

二万五千分一地形圖 鐵道補入

月山五合目附近 七月十九日山形

小千谷近傍 十三號 千手

奈良近傍 十四號 大割野

一万分一地形圖 修正

東京近傍 三號 深川

同 四號 洲崎

同 七號 日本橋

同 八號 新橋

同 九號 品川臺場

大阪近傍 五號 平野

同 六號 吹田西部

二万五千分一帝國圖

奄美大島 輿論島 伊平屋島

二十万分之一帝國圖 鐵道補入

熊本 田邊

百万分之一東亞輿地圖 修正

厦門 廣東

五万分之一都市近郊圖 修正

旭川近郊

五万分之一山嶺圖

箱根近傍

十万分之一地方圖

熊本近傍 (六色刷)

今夏の遺難者

燕岳合戰澤 七月七日學生風死體

一名發見、身許不明

前穂高北尾根 七月十七日早稻田

大學第一高等學院中野克明(18)墜

落絶命、一行三名中

小黒部仙人尾根 南大生小橋謙三墜

落重傷

富士山御殿場口八合目附近 七月

十九日東京府板橋町竹内次郎吉

(49)巨岩落下重傷後絶命

月山五合目附近 七月十九日山形

市八日町會社員木村作造(22)墜落行方不明、廿日月山澤にて死體発見、尙同行者二名も行方不明となり、索中廿三日救助。

槍ヶ岳東鎌尾根 七月二十二日大阪市平安豫備校生徒山田博二(19)墜落絶命、一行四名

赤石岳小澁川 七月二十二日甲州駒城村柳澤案内人牛田佐市(52)溺死、一行明大山岳部員

上ノ岳附近 七月廿六日岐阜縣斐太中學山岳部員峯谷勝三(18)疲勞凍死、一行五名

日光白根山 芝區高輪南町三〇通信省電氣局員鈴木千代吉(24)單獨登山、行方不明中、七月廿八日死體発見

富士山須走三合目 七月廿八日神奈川縣平塚町柴田幸太郎(35)轉落腦震盪絶命

上高地德澤牧場附近 八月一日神田區錦町三ノ四商店員久保田久孝(22)溺死

吾妻山鎌池附近 八月四日海軍大尉北帝大委託生武田治龜(32)死體発見、但昨年十月廿五日以降行方不明のものなり

大井川西股 八月十一日神田區神保町三省堂店員本會々員小林義夫墜落慘死體発見單獨登山

甲斐駒ヶ岳地獄谷 八月二十日京都帝大生石倉初雄(23)死體発見、但七月十一日以来仙水峠にて消息を絶ちしもの、單獨登山

以上今夏は七月九件九名、八月四

件四名の犠牲者あり。(但死體発見の日に依る)今年七月の近年稀な荒天に影響する所大なるものがあると思はれる。

尙今年一月來の累計は左の如し

一月 黒姫山 墜死 一死

二月 粟ヶ岳 凍死 一名

三月 金北山 凍死 三名

四月 白馬岳 凍死 一名

五月 計四件 六名

六月

調査部報告

久しい懸案であつた登山團體の調査を今度本會調査部に於て着手する事に決定した。第一に廣くその性質目的の如何を問はず登山團體の名稱と所在地を知らなければならぬ。

第二段の仕事として各團體の内容組織の調査を行ふ豫定である。調査の項目は左の如し

一 名稱、所在地

二 代表者氏名住所

三 創立年月、會員數(昭和六年十月現在)

四 定期刊行物(名稱、發行回数)

五 備考

右調査に就き會員籍を有する各團體は勿論、會員諸氏に於て知れるものあれば報告を願ひ度し。

會費未納の方は至急納められ度し 會計係



會員通信

那須群峰の那須岳、朝日岳、三本槍岳に登りました。石南滿開、三本槍の頂上では俄然雷鳴降雹忽ち白化の凄劇に見舞はれました。

大平 晨

八月十一日アサヨ岳の尾根にて胸ヶ岳の雄大な山姿を、十號カンパスに描く、それより鳳凰、薬師を経て芦安の部落へ下りました。天氣の都合よく數枚の寫生畫が出来たのが何よりうれしく思はれます。

茨木猪之吉

私の學校(大阪樟蔭女學校)では去る昭和二年の夏から女學生の日本アルプス登山を始めて居ります、先づ最初には中房から燕岳、槍ヶ岳、上高地、徳本峠と十五名を伴ひました。次の昭和三年には、藤橋、稱名瀧、室堂、劔澤の小舎(雨降り續きで劔には登れず)別山、雄山神社、立山温泉の行程で十名の参加者、昭和四年には、四ッ尾、白馬頂上(二泊)清水平、祖母谷、新鐘釣、宇奈月へと二十五名。昨年は休止。本年は去る七月十二日の夜行で高女生十三名

女專生十八名、それに男教員一名女教員貳名寫眞師一名合計三十六名の大團體で松本より中の湯泊り、雨中焼岳を越して上高地、次の日は天氣に恵まれ明神池、徳澤牧場を経て一の俣小屋泊り、翌日も快晴で槍澤小屋前の櫻の満開に女學生に驚異を與へ、肩の小舎泊り、拂曉戸外の水溜りに薄氷の張るといふ珍らしい寒さの中を生徒を二回に分ちて槍の尖峰に登らせ、東鎌尾根、特に窓の附近では細心の注意を拂はせつ、西岳泊り、次ぎの日は西岳出發より雨となり濃霧で眺望なく、風さへ加はりて左頬は雨にた、かれ、樂しかるべき銀座通も今日は悪天候と戦ひつ、燕山藏に駆け込みて晝食、午後三時より滑る下り道を中房温泉に、更に翌日は洩間温泉に一泊して豫定の旅を終りました。

朝輝記太留

去る八月一日より九日迄、南アルプス北岳より赤石迄を縦走致し候、取立て、申上ぐる程のことは無之候へ共心付きたる事柄に關し二三通信申上候。

登山口と案内人 登山口としては芦倉は他の登山口に比し汽車沿線よりの距離も長く不得策の様に考へたるも、附近迄自動車を利用し得るのみならず、非常によい案内人を得らるゝ點に於て却て好結果を齎し候、葦崎を早朝に立てば廣河原迄はその日の中に可能との事故白峯登山に最も好適と被存候、また鳳凰へも同様、第一日は南御堂又は北御堂泊

りにて候、兎に角蘆倉は自動車の交通が頻繁になるに從ひ利用者も多くなること、存候。

此處の案内人は子供の頃より山仕事に従事し居る爲め、他處の様な一夜漬の案内人は無之様に見受けられ且つ數名の案内人にて自ら組合を組織し居る有様に候、小生等の伴へる清水義信、又市の兩人も極めて實直にして且つ懸命に世話を致し呉れ荷物各々十貫近くも背負ひ、氣持よき山旅を行ひ得たるを喜び居候。

以前は此處の案内人は極めて人氣惡き由なりしも、現在の如き精進振りは是非永續せしめ度きものに候。

泊場と小屋 荒川の泊場は野呂川との合流點、鷲住山を正面にみた幽邃の地なるも、炭焼の簡單なる休場所があるのみにして天幕を要し候。

北岳小屋は富岳を正面に絶好の地唯水の少き事不便なるが欠點に候。高山裏の露營地は、申分なき平地で水も近く焚木も豊富に且つ暖く、若しも小屋が立てられるとすれば、荒川小屋に泊る者は無くなるべきかと被存候。

赤石岳東山稜、富士見平には、東海紙料會社が小屋を新築中なりしも唯今は、最早完成したること、存候

山田多市郎

北田 正三

第五十二回小集會通知

日時 来る十月六日(火)午後六時半
場所 赤坂溜池・三會堂
講演 幻燈使用
臺灣の山旅

會員 マレー・ウォルトン氏

ウォルトン氏は古くから會員として随分多くの日本の山に登つてゐます。昨年の夏臺灣の山を歩いた折の事を特に日本語で講演して戴くことになりました。御來聴を希望します

第二回關西小集會

左記要項により開催致します
日時 十月十四日(水)午後六時半
(時間勵行)

場所 大阪市南区八幡筋笠屋町角
但し市電堺筋線八幡筋電停西三辻目角

大阪貯蓄銀行支店樓上

大貯南會館

講演 カシユミール展望 榎谷徹藏氏
幻燈 カシユミールヒマラヤ (長谷川氏撮影解説附)

座談

會費 金二十錢也一日御持参のこ
と會員外の御來場も歓迎します

有志晚餐會のお知らせ

静夜山を談するに好適の時季となりました。左記の次第で會員有志晚餐會を開きます。皆様の御出席を切に希望致します。

日時 十月九日(金曜)午後六時
場所 虎ノ門・晩翠軒・日本間
會費 金參圓・當日御持参のこと
追而準備の都合も御座いますから

御出席の方はその旨葉書にて「芝區琴平町一・不二屋ビル・日本山岳會内・有志晚餐會係宛」御一報下さるやうお願い致します。

世話人

松井 幹雄
吉田 竹志
藤島 敏男

昭和六年九月廿八日印刷
昭和六年九月三十日發行

發行所

浦松佐美太郎
東京市芝區芝平町一
不三番ビル
日本山岳會
會報編輯所

(開明堂印刷所)

角田吉夫著

定價貳圓貳拾錢
送料 拾四錢

上越國境

四六判三五〇頁
クロス装函入
別刷寫眞版圖
三色地圖五枚

内容

案内編 利根川の上流 小澤嶽・下津川山より兎岳まで 平ヶ嶽附近 尾瀬 至佛山と笠ヶ嶽 武尊山 牛ヶ岳 卷機山 割引山附近 朝日岳と寶川笠ヶ嶽 谷川岳 茂倉岳附近 仙ノ倉山 萬太郎山 三國山附近 苗場山 白砂山と清津川上流の山々 八海山 駒ヶ嶽 銀山平附近 紀行編 利根水源 利根川より至佛山へ 奈良澤川湖行 牛ヶ岳 卷機山より清水峠へ 三月の仙ノ倉山 萬太郎山 茂倉岳 一ノ倉岳 三國街道と仙ノ倉山 一月の苗場山 春の白砂山と野反池 銀山平を訪ふ 三嶽廻り 谷川岳を繞る 一月の笠ヶ嶽 武尊山スキー行 三月の至佛山笠ヶ嶽縦走 附録 參考文獻 寫眞説明 上越國境附近山岳高度表 索引

上越國境附近の山地は、高度こそ劣れ、雪に岩に水に森林に草原に、何れに於ても日本アルプスに多くを譲るものではありません。而も流行のアルプスよりも遙かに處女性を保ち、到る所に疲れをやさめる素朴な温泉まであります。近時漸く多くの登山者が上越へ上越へと目指すやうになつたのは誠に當然です。その上、上越線の全通は越後側の登山を便にし、且つ夜行を利用し得ることによつて、この山地は僅少な時日と費用とで、四季を通じ山への憧れを満してくる聖地となりました。その最良の伴侶こそ即ち本書です。從來、上越國境の山と云へば多くは清水峠から三國峠までの間の山々のみが聯想されたやうですが、本書の内容は前に記す如く、東は上・越・岩の國境尾瀬から、西は上・越・信三國境の雄峯白砂山まで、文字通り上越國境の全部と附近の山々溪々を含み、北アルプス全部に匹敵する廣汎な地域に亘つて居ます。その價值について著者を知られる諸氏に今更暇々する必要はないでせう。三十四葉四十六圖の素晴しい別刷寫眞版だけでも山好きの魂を上越の境に飛ばせるには充分です。五枚の三色刷地圖には陸測五萬分一地圖にもなき登山路や山小屋等、最新の消息が洩れなく記載してありますから、此地方を目指す人には不可欠のものでせう。最後に本書の一大特色として挙げたいのは積雪期の登山についても精細に説明してあることです。尚越後側の山々や同方面からの國境山脈への登路が詳述してあるのも、上越線の全通した今日、新しい山旅のプランに大いに役立つと信じます。

田部重治著 峠と高原

定價壹圓五拾錢
送料 拾錢

田部重治編 スキーの山旅

定價貳圓五拾錢
送料 拾四錢

發行所 東京市小石川區 大村書店

電話小石川五一二四
振替東京四六九七五

美 満 津 特 製

メーブル スキー



印山スキー!

スキー 附 屬 品 各 種
冬 山 登 山 用 具
「メタ」安 全 燃 料

META 燃 料 株 式 會 社 日 本 代 理 店
WINSLOW スケート 會 社

合 名 會 社

美 満 津 商 店

東 京 本 郷 赤 門 前